



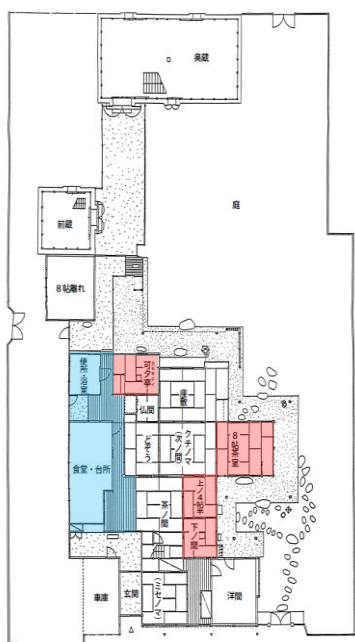
市指定文化財 水毛生家住宅

【所在】本町3丁目

【年代】1850年頃 後に移築
町家型(妻入り型)

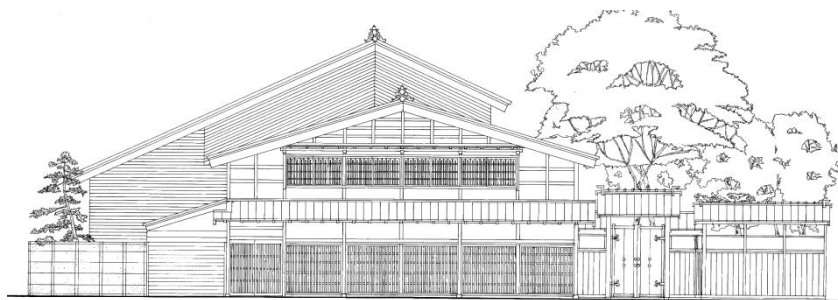
水毛生家は、もと加賀守護の富樫氏に仕え、天正十五年(1587)から野々市に住み、代々伊右衛門(伊余門)を名乗っていました。

水毛生家は、妻入りになる農家の形ですが、表側ミセノマはこの家で最も古く、江戸期における町家特有の板葺屋根の勾配になっています。また、間取りも左にトオリニワがあり、仏壇とトコの並びも家の奥行きと平行になる町家です。このような家は、石川県では他に例を見ない特殊なもので、農村と町場の中間的性格をもった本町独特の野々市型町家の一つと考えられます。



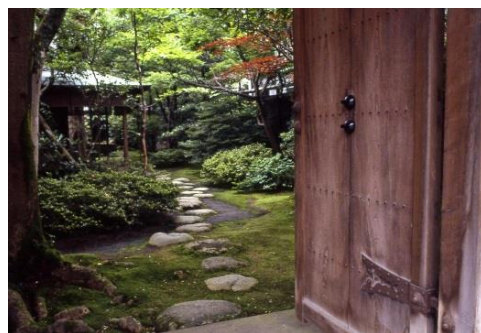
■ = もとは土間で、トオリニワでしたが、現在は台所や浴室になっています。

■ = お茶のための空間



15代の伊余門は、母屋の茶ノ間・下ノ間よりも奥の部分で、京風に洗練された数寄屋造りに建替えています。

数寄屋造りとは、茶室風の様式を取り入れた造りのことです。下ノ間・上ノ四帖半、八帖茶室、可夕亭という、3つのお茶のための空間に、一間ほどのきわめて深い土庇をぐるりと回してこれを連続させています。



庭園のようす